

空間において、2点  $A(0, 1, 0)$ ,  $B(-1, 0, 0)$  を通る直線を  $l$  とする. 次の問いに答えよ.

- (1) 点  $P$  を  $l$  上に, 点  $Q$  を  $z$  軸上にとる.  $\overrightarrow{PQ}$  がベクトル  $(3, 1, -1)$  と平行になるときの  $P$  と  $Q$  の座標をそれぞれ求めよ.
- (2) 点  $R$  を  $l$  上に, 点  $S$  を  $z$  軸上にとる.  $\overrightarrow{RS}$  が  $\overrightarrow{AB}$  およびベクトル  $(0, 0, 1)$  の両方に垂直になるときの  $R$  と  $S$  の座標をそれぞれ求めよ.
- (3)  $R, S$  を (2) で求めた点とする. 点  $T$  を  $l$  上に, 点  $U$  を  $z$  軸上にとる. また,  $\vec{v} = (a, b, c)$  は零ベクトルではなく,  $\overrightarrow{RS}$  に垂直ではないとする.  $\overrightarrow{TU}$  が  $\vec{v}$  と平行になるときの  $T$  と  $U$  の座標をそれぞれ求めよ.

(13 神戸大 理1文1)

---

【答】

- (1)  $P\left(-\frac{3}{2}, \frac{1}{2}, 0\right)$ ,  $Q\left(0, 0, -\frac{1}{2}\right)$
- (2)  $R\left(-\frac{1}{2}, \frac{1}{2}, 0\right)$ ,  $S(0, 0, 0)$
- (3)  $T\left(\frac{a}{b-a}, \frac{b}{b-a}, 0\right)$ ,  $U\left(0, 0, \frac{c}{a-b}\right)$

## 【チェック・チェック】

零ベクトルでない2つのベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  について

平行になるための条件は,  $\vec{a} = k\vec{b}$  を満たす実数  $k$  が存在することであり,

垂直になるための条件は,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$

が成り立つことです.

## 【解答】

(1) 点 P は  $\ell$  上, 点 Q は  $z$  軸上にあるから, 原点  $(0, 0, 0)$  を O とすると

$$\begin{aligned}\vec{OP} &= \vec{OA} + p\vec{AB} = (0, 1, 0) + p(-1, -1, 0) \\ &= (-p, 1-p, 0),\end{aligned}$$

← 点 P が直線 AB 上にあるための条件

$$\vec{OQ} = q(0, 0, 1) = (0, 0, q)$$

と表せる. ここで,  $p, q$  は実数である. このとき,

$$\vec{PQ} = \vec{OQ} - \vec{OP} = (p, p-1, q)$$

← ベクトルの差

であるから,  $\vec{PQ}$  がベクトル  $(3, 1, -1)$  と平行になる条件は

$$(p, p-1, q) = k(3, 1, -1)$$

← チ&リ (平行条件),  
wikipedia も参照しましょう.

を満たす実数  $k$  が存在することである.

$$\begin{cases} p = 3k \\ p - 1 = k \\ q = -k \end{cases} \iff \begin{cases} p = 3k \\ 3k - 1 = k \\ q = -k \end{cases}$$

← 代入法の原理

$$\therefore k = \frac{1}{2}, p = \frac{3}{2}, q = -\frac{1}{2}$$

よって, P と Q の座標は

$$P\left(-\frac{3}{2}, -\frac{1}{2}, 0\right), \quad Q\left(0, 0, -\frac{1}{2}\right) \quad \dots\dots(\text{答})$$

(2) 点 R は  $\ell$  上に, 点 S は  $z$  軸上にあるから, (1) と同じく, 実数  $r, s$  を用いると

$$\vec{OR} = (-r, 1-r, 0), \quad \vec{OS} = (0, 0, s)$$

と表せるから,

$$\vec{RS} = (r, r-1, s)$$

であり,  $\vec{RS}$  が  $\vec{AB}$  およびベクトル  $(0, 0, 1)$  の両方に垂直になる条件は

← チ&リ (ベクトルの垂直・平行),  
wikipedia も参照しましょう.

$$\begin{cases} \vec{RS} \cdot \vec{AB} = 0 \\ \vec{RS} \cdot (0, 0, 1) = 0 \end{cases}$$

である。これより

$$\begin{cases} (r, r-1, s) \cdot (-1, -1, 0) = 0 \\ (r, r-1, s) \cdot (0, 0, 1) = 0 \\ -r - (r-1) = 0 \\ s = 0 \end{cases}$$

$$\therefore r = \frac{1}{2}, \quad s = 0$$

よって、R と S の座標は

$$\mathbf{R}\left(-\frac{1}{2}, \frac{1}{2}, 0\right), \quad \mathbf{S}(0, 0, 0) \quad \dots\dots(\text{答})$$

(3) R, S を (2) で求めた点とする。点 T は  $l$  上に、点 U は  $z$  軸上にあるから、(1) と同じく、実数  $t, u$  を用いると

$$\overrightarrow{\text{OT}} = (-t, 1-t, 0), \quad \overrightarrow{\text{OU}} = (0, 0, u)$$

と表せるから、

$$\overrightarrow{\text{TU}} = (t, t-1, u)$$

である。また、零ベクトルでない  $\vec{v} = (a, b, c)$  は  $\overrightarrow{\text{RS}} = \left(\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}, 0\right)$  に垂直ではないから

$$\begin{aligned} \vec{v} \cdot \overrightarrow{\text{RS}} &\neq 0 \\ (a, b, c) \cdot \left(\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}, 0\right) &\neq 0 \\ \frac{a-b}{2} &\neq 0 \quad \therefore a-b \neq 0 \quad \dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$\overrightarrow{\text{TU}}$  が  $\vec{v}$  と平行になる条件は

$$(t, t-1, u) = m(a, b, c)$$

を満たす実数  $m$  が存在することである。

$$\begin{cases} t = ma \\ t-1 = mb \\ u = mc \end{cases} \iff \begin{cases} t = ma \\ m(a-b) = 1 \\ u = mc \end{cases}$$

① より

$$m = \frac{1}{a-b}, \quad t = \frac{a}{a-b}, \quad u = \frac{c}{a-b}$$

よって、T と U の座標は

$$\mathbf{T}\left(\frac{a}{b-a}, \frac{b}{b-a}, 0\right), \quad \mathbf{U}\left(0, 0, \frac{c}{a-b}\right) \quad \dots\dots(\text{答})$$

← 垂直および平行という概念は  $\vec{0}$  でないベクトルに対して行われるものである。

← 代入法の原理